

愛をつたえた青い目の医者

ヘボン博士と日本の夜あけ

神戸淳吉・作 小島直・絵



PHPこころのノンフィクション発刊のことば

このシリーズは、さまざまな分野で理想を追い求め、勇気と情熱をもって懸命に生きた人々の姿を、事実をもとに描くものです。私たちに人生のすばらしさを語り、生きることのよろこびを与えずにはおかない数々の魂の軌跡、それを、次代をになう子どもたちにひろく伝えたいと念願しております。

愛をつたえた青い目の医者

昭和56年 9月 9日

第1刷

著者 神戸淳吉

画家 小島 直

発行者 江口克彦

発行所 PHP研究所

〒601 京都市南区西九条北ノ内町11

電話 075(681)4431 <代表>

東京事務所 03(295)9211

印刷・製本 大日本印刷株式会社

© 1981 Jyunkichi Kanbe & Tadashi Kojima Printed in Japan.

乱丁・落丁本はご面倒ですが弊所出版部宛お送り下さい。送料弊所負担にてお取り替え致します。

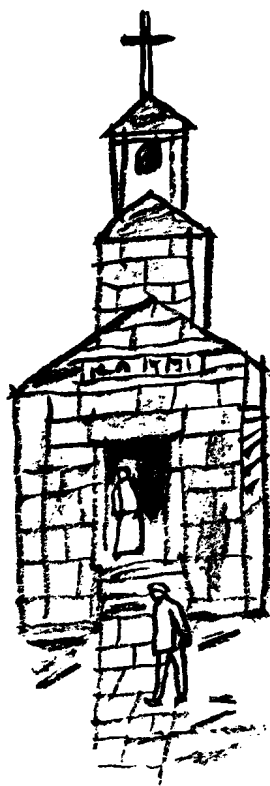
愛をつたえた青い目の医者

ヘボン博士と日本の夜あけ

神戸淳吉・作 小島 直・絵



もくじ



馬小屋の異人 8

刀をつきつけられて 17

ころしにきた男 24

にげる刺客 34

あやしい診療所 41

からだと心の医者 48

九人の英学生 60

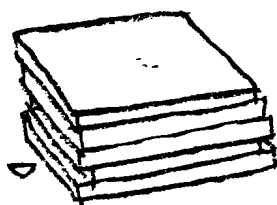
わるい人もすくうのか 71

いのちがけの洗札 84

ローマ字の日本語辞書

田之助とお伝 91

英学でうらみを 111



刀を筆に

119

人間はみなおなじ

128

しのびこむ課者

136

秘密の聖書を

145

神による旅人

161

あとがき

164



著者・神戸淳吉(かんべ・じゅんきち)

1920年東京生まれ。日本大学専門部社会科卒業。社会福祉事業についたのち文筆活動にはいる。著書には『子バトのクウク』『にんぎょのゆびわ』『はしれクラウド』『大仏建立物語』『ヘレン・ケラー』『キリスト』などがある。

現住所 〒180-03 東久留米市幸町1-21-6

画家・小島 直(こじま・ただし)

1920年埼玉県生まれ。東京美術学校油絵科卒業。作品には『元禄の白い塩』『かもとりごんべい』『きんじろう』『米沢英和女学校』などがある。また寺院関係の建築物に装飾壁画を執筆する。

現住所 〒165 東京都中野区江原町1-23-225

愛をつたえた青い目の医者



馬小屋の異人

砂地すなちと貝がらの白い道をいくと、おだやかな神奈川かながわの海がみえてきました。成仏寺じょうぶつじはそのまゑにあつて、わらぶきの大きな寺でした。

ヘップバーンははじめてみる日本の寺のつくりを、めずらしそうにながめていると、

「じつは、いま、この寺しかないのです……。うまやのようだといって、どなたもとわられるので、この寺しかのこっていないのです。」

と、あんないしてきたアメリカの領事りょうじたちはきょうしゆくしたようにいいました。

そういわれれば、いまとおつてきた慶雲寺けいうんじはフランス領事館りょうじかんとなつていただけに、

この成仏寺よりりっぱです。

「なるほど……。しかし、うまやとはよいことをきかせてくださった。イエスさまがお生まれになったところもうまやですし、わたしたちもそれにあやかっこの寺におねがいできますかな。」

「どうぞ、おねがいします。こんな大きくて、ひろくて、りっぱなうまやははじめてです。ふしぎなおみちびきだわ。」

ヘップバーンのおくさんのクララも、うまやのようだという、わらぶきの大きな寺をかえってよろこんでいるようです。

「いや、そういつてもらえると、われわれもたすかりますが、ほんとうにこんな荒れ寺でいいんですかね。」

あんないの領事たちはヘップバーンたちの気もちをはかりかね、まだ、しんぱいするでした。

ここは東海道とうかいどうの海ぞいにある神奈川かながわの宿場町しゆくばまち。

アメリカの宣教師せんきょうしであり、医師いしであるジェームス・カーチス・ヘップバーン（ヘボン）と、クララの夫妻ふさいがこれからすむ宿舎しゆくしゃの成仏寺じようぶつじをみにきたところです。いまから

百二十年ほどまえの安政六年（一八五九年）十月十八日のことです。

そのころの日本は徳川幕府がおさめていて、三百年ものながいあいだ、諸外国と国交をたつ鎖国をつづけていました。そのあいだに、イギリス、アメリカなど世界の国ぐには、発明、発見などによって、文化、文明は年ごとにひらけ、すっかりすすんだ国になっていました。

ところが、あいかわらず鎖国のままの日本は、まったく世界のうごきからとりおされてしまいました。

こうしたとき、アメリカ、イギリス、ロシア（今のソビエト連邦）、フランスなどの世界の大国は、アジアの日本へやってきて、国交をむすぶ開国をもとめました。

「国をひらけなどとは、もつてのほかじゃ。」

幕府はそのたびにきびしく、アメリカなどのもとめをはねつけました。

三百年ものあいだ、かたくなに鎖国をつづけていることに、じつは、それなりの理由があったからです。

「毛唐どもはゆだんのならぬキリシタンどもじゃ。外国のよからぬ教えを日本にひろめ、日本をおさえるかんがえじゃ。」

幕府のしんぱいは、キリシタンとよばれるキリストの教えが日本へはいることをたいそうおそれていたからです。と、いうのは、むかし、まだ、幕府がその教えをそれほどきびしくとりしまらなかつたころ、キリシタンたちは一揆をおこしたことがあります。領主の悪政にたえかねてのことでしたが、信仰をおなじくする人びとの団結はかたく、一揆はなかなかおさえられません。

ついに、幕府がのりだして力づくでその一揆をとりつぶしましたが、それいらい、キリシタンをたいそうおそれ、また、にくみ、きびしくとりしまるようになったのです。

ところが、日本が鎖国しているあいだに、キリシタンは大きくかわっていました。むかし、日本へキリスト教をつたえたキリシタンのスペインなどはカトリックという派の信者がおおく、また、開国をもとめているアメリカ、イギリスなどは、プロテスタントというあたらしい一派の信者がおおくいるからです。

けれど、いまは、どの国も宗教よりも貿易をさかんにし、おたがいがゆたかになり、したくしようというのが、すすんだ国ぐにのかんがえでした。

こうしたキリスト教のうごきや、国ぐにのかんがえについては、幕府はほとんどし

りません。

むかしのとおり、キリスト教国には心をゆるしてはならぬと、国をとぎしているのです。

「もう、そのようなことをいってはいは、世界からとりのこされてしまいますぞ。」

アメリカなどからつよくすすめられ、日本を代表する幕府はいよいよこまっていました。と、いって、おいはらうにはこれらの国ぐにの力はつよく、とてもたちうちできるものではありません。ついに、幕府は、

「キリスト教を、けっして、ひろめてはならぬ。」

などを条件に、アメリカなどと国をひらく和親条約をむすぶにいたしました。

「日本が開国した……。日本へいける。」

そのニュースをアメリカのニューヨークできいたヘップバーンは、おもわず胸をおどらしました。

「ながいあいだ、日本へいってキリスト教をつたえたいとねがっていたが、いま、ようやくその祈りがかなえられた。」

ヘップバーンはお母さんが牧師のむすめで、外国伝道にねっしんであったことに、

つよく感化かんかされたのでしょう。ちいさいころから外国への伝道をころざしていたからです。

ことに、ひらけていない国は病気でくるしんでいる人がおおいときいて、ヘップバーンは医者になり、病人をいやしつつ、キリスト教をつたえたいとかがえるようになりしました。そのために眼科がんかのほか、内科ないか、外科げかなどの医学をまなんだあと、クララ・リートと結婚けっこんし、中国へわたりました。そして、かねてからのねがいの医療いりようと伝道にばげみました。二十八才のときです。

ところが、なれぬ外国生活でクララは病気になり、また、生まれた子どもが死ぬなどして、ヘップバーンたちはアメリカへひきあげねばなりませんでした。

ヘップバーンはアメリカへもどってニューヨークにおちつくと、ちいさな診療所しんりようじよをひらきました。ヘップバーンのしんせつで、すぐれた治療ちりようのおかげで、診療所はしだいに大きくなり、十三年ほどたつと、ニューヨークでも一、二といわれる大病院となりました。また、そのあいだにけんきゅうした論文ろんぶんで、医学博士いがくはかせの名誉めいよもうけました。

けれど、どんなに病院が大きくなろうと、また、くらしがゆたかになろうとも、ヘップバーンがねがっている外国への伝道と、病人をいやす医療活動のころざしはか

わりません。

ちようど、そのようなとき、日本の開国かいこくのしらせをしたのです。

ヘップバーンのけっしんをきいて、みんなびつくりしました。

「ヘップバーン先生。日本は国をひらいたといつても、外国人をたいそうにくみ、きらっているということです。それにキリスト教の伝道はかたくとめられています。そんなあぶない国へ伝道にいらっしゃるなんて、わざわざ命をすてにいくようなものです。どうぞ、おもいとどまってください。」

ヘップバーンをしたう患者かんじやたちが心をこめていさめました。また、友人たちも、「ヘップバーン君。君はもう四十すぎだぞ。けっしてわかくはない。それにお子さんをおじいさんにあずけていくそうではないか。また、病院やすまい、三つもある別荘べつそうまで売りはらい、その金で薬などをととのえるそうだが、むちゃなことはやめろ。もし、このまえのようにおくさんが病氣になつても、かえるところも、金もないことになるぞ。」

と、口ぐちにとめました。

けれど、ヘップバーンとクララ夫妻ふさいのかたいけっしんは、なんとしてもかわりませ

